

## 西脇市民会館の客席数について

### ■日本建築学会（建築設計資料集成）・・・客席の寸法について

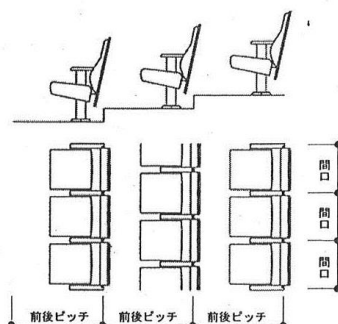
#### ・一人あたりの客席所要面積

客席の寸法や配置の形式は個々の場合に応じて異なるが、基本設計段階では通路などを含めた1人当たりの客席所要面積を把握することが重要である。

一般的な劇場タイプの客席の場合  $0.6\sim 0.7\text{ m}^2/\text{人}$ 、体育施設などのベンチタイプの客席の場合  $0.35\sim 0.45\text{ m}^2/\text{人}$ 、立見席の場合  $0.2\sim 0.3\text{ m}^2/\text{人}$ 程度が目安とされる。

### ■最近に施設計画をしているホールの座席寸法

ゆったりと鑑賞ができるよう座席幅や前後間隔に配慮し、椅子間口  $530\text{ mm}$ 、前後ピッチ  $950\text{ mm}$ 程度を目標に設置しているところが殆どである。



### ■現状の西脇市民会館について

現西脇市民会館の大ホールは  $660$  席を有しているが、椅子間口  $500\text{ mm}$ 、前後ピッチ  $860\text{ mm}$ となっており、利用者からは特に前後ピッチが狭いという意見を多く聞いている。

### ■増築改修検討による客席数について

現市民会館の大ホールの状況で、ゆったりと鑑賞できる座席幅や前後間隔に配慮し、椅子間口  $530\text{ mm}$ 、前後ピッチ  $950\text{ mm}$ とした場合、現状の列数  $23$  列に対し、 $21$  列となり、 $2$  列減少する。また、 $1$  列当たりの席数も  $3$  席減少することとなる。

現状が、 $23$  列、 $1$  列当たり  $30$  席とすると、 $23\times 3$  席、 $30\times 2$  列が減少することとなり  $129$  席が減少し、現状の大ホールでの席数は  $531$  席となる。

また、舞台の奥行きが現状  $7\text{ m}$ で舞台裏の通路もないため、舞台を  $10.8\text{ m}$ 程度、舞台裏通路を設置するとなると、前列  $6$  列～ $8$  列減少させることになり、現状の座席幅でも  $184$  席減少し  $476$  席となる。さらに、前後間隔に配慮すれば  $99$  席減少し  $377$  席となる。